

公立学校情報機器整備事業に係る各種計画

令和7年2月

朝日町

【三重県朝日町】 端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
①児童生徒数	1,146	1,130	1,060	1,058	1,025
②予備機を含む 整備台数上限	0	782	0	0	408
③整備台数 (予備機除く)	0	693	0	0	355
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	693	0	0	355
⑤累積更新率	0%	61%	61%	61%	100%
⑥予備機整備台数	0	60	0	0	30
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	60	0	0	30
⑧予備機整備率	0%	8.7%	0%	0%	8.4%

(端末整備・更新の考え方)

小学校：令和2年度に整備を行った端末を令和7年度に更新する。

中学校：令和5年度に整備を行った端末を令和10年度に更新予定である。

令和10年9月から使用開始予定

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：846台（令和7年度小学校）

○処分方法：使用済端末を公共施設等で再利用：50台程度

小型家電リサイクル法の認定事業者にて再使用・再資源化を委託：796台程度

○端末のデータ消去方法

・処分事業者へ委託する（キッティング業者に含める）

スケジュール（予定）

令和7年8月：処分事業者の選定（キッティング業者に含める）

令和8年4月：新規購入端末の使用開始

令和8年4月：使用済端末の事業者への引き渡し

○その他特記事項

※令和7年度以降（中学校分）については別途定める

三重県朝日町のネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校に占める割合（％）
 - ・総学校数 : 2校（中学校：1校、小学校：1校）
 - ・確保できている学校数：2校（中学校：1校、小学校：1校）
 - ・総学校数に占める割合：100％
2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール
 - ・光通信ケーブル（専用線）を含むネットワーク機器等について、令和7年度に光通信ケーブルは1GBから10GBに、ネットワーク機器等はWi-Fi5からWi-Fi6に更新予定である。
 - ・アセスメントの実施については、小中学校のPC及びネットワーク等の管理・運用を委託しており、その委託業者が必要に応じて実施する。

三重県朝日町校務DX計画

令和2年度より、総合型校務支援システムを導入し、校務管理・学籍管理・成績管理・保健管理のデジタル化を推進するとともに、教員同士の情報共有を効率化し、教職員の資質および指導力の向上を図ってきました。

また、令和6年度からは、小中学校向け無料連絡ツールを導入し、学校と保護者間のコミュニケーションの円滑化を実現し、学校のICT化を一層推進しています。

さらに、令和7年度からは、児童生徒の健康管理といじめ防止支援を強化するため、新たなアプリを導入し、心身の健康管理および相談支援のデジタル化に取り組む予定です。

加えて、以下の取り組みを推進し、校務効率化と教職員の働き方改革を加速させます。

- ・クラウドサービスへの移行検討
- ・デジタル採点システムや連絡システムの有効活用
- ・FAX・押印の廃止
- ・職員会議や資料作成のペーパーレス化

様々なICTツールやデジタルシステムを活用し、校務の効率化と働き方改革を実現することで、教育現場の負担軽減と、児童生徒に寄り添う教育環境の構築を目指します。

三重県朝日町1人1台端末の利活用に係る計画

朝日町の教育大綱が掲げる「自ら未来を切り拓く人間力の育成と歴史・文化の香るまちづくり」の実現に向けて、学習指導要領および中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」（令和3年1月）を踏まえ、ICT環境を最大限に活用します。これにより、児童生徒一人ひとりの可能性を引き出し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進します。

ICT環境を通じて、児童生徒が自らのペースで学びながら、他者と協力して深めていく力を育むことができます。こうした取り組みを通じて、「自ら未来を切り拓く人間力」を育成するとともに、朝日町の歴史・文化を大切にする学びを推進し、持続可能な社会を担う人材を育てます。

GIGA 第1期の総括

令和5年度までに、GIGAスクール構想の実現に向けて着実な進展が見られました。具体的には、1人1台端末の整備、通信ネットワークの強化、そしてICT環境を活用した学びの実践が進められました。本総括では、これまでの取組とその成果を整理し、明らかになった課題とその解決策についても考察します。

1. 端末・通信ネットワークの整備

GIGAスクール構想の第1期では、全ての児童生徒に1人1台端末を提供し、通信ネットワークを整備しました。これにより、校内外で途切れない学びの環境が実現しました。端末にはタブレット型PCを主に導入し、学習支援ツールを活用するための基盤が整いました。また、通信ネットワーク（Wi-Fi環境）の整備により、インターネットを活用した学習やオンライン授業もスムーズに行えるようになりました。

2. ICTを活用した学びの実践

ICT端末を活用した学びは、個別最適な学習や協働的な学びの実現に寄与しました。具体的には、デジタル教材や学習支援ツールを使用することで、児童生徒一人ひとりに合わせた学習の進捗管理ができるようになりました。また、協働学習が進み、教室内外での意見交換や情報共有が円滑に行われるようになりました。これにより、児童生徒たちの学びの幅が広がり、主体的に学ぶ力や協力しながら学ぶ力が育成されました。

3. 課題とその解決策

(1) 端末の管理・維持

課題：1人1台端末の導入に伴い、端末の管理やメンテナンスに手間がかかり、特に故障や不具合が発生した際に迅速に対応する体制が求められました。また、児童生徒が端末を適切に取り扱うための指導も不十分であることが課題として挙げられました。

解決策：端末の管理システムを改善し、修理や点検の体制を強化することで、迅速に対応できるようにします。また、端末使用に関するマニュアルやガイドラインを作成し、児童生徒と教職員への定期的な教育を実施することで、適切な利用方法を周知徹底します。

(2) 通信環境の安定性

課題：通信ネットワークの整備は進みましたが、授業のピーク時や児童生徒数が多い場合などに通信が不安定になるケースがありました。

解決策：校内の通信設備の更なる強化と、通信量の管理を徹底し、安定したネットワーク提供を実現します。

(3) 教職員のICT活用スキル

課題：教職員の中にはICT機器やデジタル教材の使い方に不安を感じている人もおり、積極的にICTを授業に活用できていない場合があります。また、ICTを活用した指導法の研修機会の不足も課題として挙げられます。

解決策：教職員向けのICT研修を三重県教育委員会と連携して実施し、スキルアップを図るとともに、教職員同士の情報交換やノウハウ共有の場を増やすことで、授業にICTを取り入れやすくする支援体制を整備します。

(4) 児童生徒のICTリテラシーの向上

課題：児童生徒の中には、ICT端末やインターネットを日常的に利用している一方で、適切な情報活用能力（情報の検索・分析・発信）の育成が不十分であることがありました。また、インターネットの利用に関するモラルやマナーの理解も不十分でした。

解決策：情報モラル教育や、ICTリテラシーを高める授業をカリキュラムに組み込み、児童生徒が情報を正しく活用し、発信できる能力を養います。また、学校内外での情報セキュリティ教育を強化し、安全なネット利用を促進します。

4. 今後の展望

GIGAスクール構想第1期を通じて、ICT環境は着実に整備され、学びの質の向上が図られましたが、さらにICTを効果的に活用するためには、教職員のスキル向上や児童生徒のICTリテラシー教育を継続的に強化する必要があります。また、通信ネットワークの安定性や端末の管理体制の改善を進め、持続可能で効果的なICT教育環境の構築を目指していきます。

5. まとめ

GIGAスクール構想の第1期では、ICT環境の整備に大きな進展があり、学びの質向上に貢献しましたが、課題も残されており、引き続きその解決に取り組む必要があります。今後は、ICTを最大限に活用し、児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指して、より効果的な教育環境を構築していきます。

1人1台端末の利活用方策

1. 端末環境の整備・更新と維持

令和5年度までに整備した1人1台端末の環境は、児童生徒一人ひとりに端末を提供する体制を確立しました。今後も、この端末環境を引き続き維持し、定期的な更新・管理を行い、学習環境としての質を高めます。端末の更新は、技術的な進化に対応するため、最適なタイミングで行い、また必要に応じてサポート体制を強化します。

2. 個別最適な学びの推進

1人1台端末を活用することで、児童生徒それぞれの学習スタイルやペースに応じた「個別最適な学び」を実現できます。デジタル教材の活用により、児童生徒の理解度に応じた柔軟な学習が可能となり、学習進捗をリアルタイムで把握できます。これにより、教職員は適切なタイミングで支援を行い、児童生徒は自分のペースで学びを深め、自己調整能力を育むことができます。ただし、財政的な制約により、高度なアダプティブ学習支援ツールの導入は困難な状況にあります。そのため、デジタル教材を最大限効果的に活用し、個別最適な学びの実現を目指します。

3. 協働的な学びの推進

端末を通じて、児童生徒間の協働学習の機会を増加させます。クラウドツールやオンラインプラットフォームを活用することで、教室内外で意見交換やグループでのプロジェクト活動が容易になり、協力しながら問題を解決する力が育成されます。具体的には、共同編集可能なドキュメントやビデオ会議ツールを用いて、ディスカッションや共同作業を行うことができる環境を提供します。

4. 学びの保障と教育相談

「学びの保障」として、端末を活用した個別学習の支援だけでなく、学外での端末利用も促進します。特に、教育相談においては、児童生徒の心身の健康観察を行うために端末を利用し、適切な支援へとつなげます。具体的には、無償・有償で利用可能な健康観察・教育相談システムを導入し、オンラインでの相談やフィードバックが可能な環境を整備します。これにより、児童生徒一人ひとりの心のケアをICTで支え、より細やかな対応ができるようになります。

5. ICTリテラシー教育の強化

端末の利活用を促進するためには、児童生徒がICTを正しく活用できるようにする教育が不可欠です。情報モラル教育をカリキュラムに組み込み、デジタル時代に必要な情報活用能力やインターネットの安全な利用方法を身につけさせます。また、端末を活用したプロジェクトや探究学習を通じて、情報収集・分析・発信のスキルを育成します。

6. 教職員のICT活用スキルの向上

端末を有効に活用するためには、教職員のICT活用スキルの向上が欠かせません。定期的なICT研修を実施し、授業での端末活用方法を学び、教職員同士での情報交換の場を提供します。これにより、教員がICTを授業に積極的に取り入れることができ、児童生徒への支援がより効果的に行われます。

7. 端末の活用による学びの質向上

1人1台端末の利活用により、児童生徒が自己学習を進めるだけでなく、教師と児童生徒、また児童生徒同士の連携も強化されます。端末を通じて、学習の成果を共有し、振り返りを行うことで、学びの質の向上を図ります。さらに、端末に保存された学習データを基に、個別にフィードバックを行うことで、学びの定着を促進します。

8. 地域との連携

端末を活用して、地域資源を学びに取り入れることも重要です。例えば、地域の歴史や文化をテーマにした探究学習を行い、地域の専門家とオンラインで交流することができます。これにより、地域の特色を学びながら、地域社会とのつながりを深めることができます。

まとめ

GIGAスクール構想に基づき、1人1台端末を活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進し、朝日町の教育大綱（令和7年度改訂）に掲げる「自ら未来を切り拓く人間力の育成と歴史・文化の香るまちづくり」を実現していきます。端末の整備・更新を引き続き行い、教育相談や心の健康観察を通じて、学びの保障と児童生徒の支援を強化します。また、ICTを積極的に活用することで、児童生徒の学力向上だけでなく、社会で生き抜く力を育むことができます。

1人1台端末の利活用指標及び目標

項目	評価の指標	現状値 (年度)	目標値 (目標年度)
1人1台端末の 整備	指導者用端末の整備済みの学校の率	100% (R6)	現状維持
	1人1台端末を常時活用できるよう、十分な予備機を整備している学校の率	100% (R6)	現状維持
ネットワークの 改善	無線LANによりインターネット接続を行う普及教室の率	100% (R6)	現状維持
	端末利用に係る回線の速度を計測・把握した学校の率	100% (R6)	現状維持
	必要なネットワーク速度を確保済みの学校の率	100% (R6)	現状維持
1人1台端末の 積極的活用	ICT 支援員の配置	1校/人 (R6)	現状維持
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	100% (R6)	現状維持
	デジタル教科書を活用している学校の率	100% (R6)	現状維持
個別最適・協働的 な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	100% (R6)	現状維持
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	100% (R6)	現状維持
	教職員と児童生徒がやり取りする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	0% (R6)	100% (R8)